

六. 衛生材料

(一) 補充整備

1. 實況

秋冬季集結間及夏季集結間ニ於テハ概テ月一回軍貨物廠ニ於テ各月ニ一六噸ノ補充ヲ受ケ、衛陽、寶慶間自動貨車ニ依リ輸送セリ

春季山岳作戰ニ於テハ作戰間所屬ノ後方ヲ跟隨スル兵站糧食ヨリ計^約〇・五噸ノ補充ヲ受ケタリ

2. 得失ニ對スル參考

(1) 補充ノ數ケ月分ヲ勉テ取纏ノ一噸ニ實施スルヲ有利トス

理由

1. 輸送ノ困難ト敵空軍ノ跳梁ハ後方基地滞貨ヲ最モ不利トス

ヲシム

2. 分散配置ヲ可トス

八、余裕アル補給ヲ實施シ得

ニ、質量的ニ横澤ノ自由ヲ得

(2) 常ニ不足セル衛生材料左ノ如シ

制菌剤、塩類下剤、軟泥膏類、驅虫剤、解熱剤、特殊材料中
エメテン類

内驅虫剤、塩類下剤、軟泥膏類ノ一部ヲ除ケバ現地自治ハ不能
ナリキ

(3) 個人裝備材料ノ價值

二十年春期山岳作戦ニ於テ將兵ニ携行セシメタル藥物ハ左ノ如シ

クレオソート丸、淨水液(劑、錠) マラリア劑、スルファアミン錠(又ハ

其他ノ止痛劑) 嘔吐預防劑ナリシニ 中淨水劑ハ使用不便

ナレバ淨水液ヲ可トスベシ 其他ノ藥物ハ論ヤマセ 特ニ優劣ナル劑

劑(特ニ「アメ」バニ對スル)ノ選定ヲ要ス

尚ほ各兵外傷藥類携行ヲモ必要ト認ム

0888

(二) 輸送集積補給

但前二項の場合に於ては各人其携帶袋式、裝備ヲ要スヘシ

1. 部隊輸送ノ實況

作戰間行進生材料ハ大部梱包箱等ヲ以テ代用醫務
製作シ一部制式醫務、内容品入組ノ適宜変更シ各野戰
院ニ〇―三〇梱一被部隊ハ概テ步兵一箇大隊ニ付三―六梱ノ
馬ニヨリ輸送ス

2. 輸送上ノ参考事例

(1) 液劑類ノ破損率ハ二〇―三〇ノ軒輸送ニ於テ一〇―一五%シ
セリ

(2) リンゲル液、生理食塩水ハ容積倍大ニシテ破損シ易シ濃縮セル
シ可トス本液ノ包装ハ紙箱ハ不利ナリ

(3) 漢藥製劑ノ製法ハ包装ハ研究ヲ要ス濕潤シ易ノ破綻變質
ヲ招キ易シ徒ラニ容積ヲ増加スル懼アリ

(4) 衛生部負持行用トシテ軟膏類ハ「チューブ」入ヲ可トス（瓶類破損スル事多シ）

(5) 固形クレゾール等、湿潤シ易キ藥物ノ包装ハ更ニ改善ヲ要ス

(3) 醫極類ニ就テ

ハ大正三年式及四年式ハ何レモ容積、重量共ニ過大（重）ナリ

對策

i 通信器材若クハ彈藥箱犬ノモノヲ可トス

ii 重量ハ一〇%程前後ニ縮少シ得 但シ外匣ヲ輕合金ニテ製

作スルヲ得バ最モ可ナリ（変形防止必要ナリ）

iii 駄載ニ儘取出シ作業可ナル如ク製作スルヲ可トス

iv 浸水防止ノ處置ヲ稱ズルヲ要ス 駄馬水中ニ墮落シ引上困

難ナル場合外匣ニ穿孔（ニ―三箇）シアリテ速クニ水中ヨリ引

上ケ得ル如クスルハ有利ナリ

(2) 丸九式醫極

外匣柔軟ニシテ弱シ從ツテ内容ノ破損率ハ大ナリ

(3) 擔架

割式擔架ハ不要ナリ(過重)

(4) 天幕類

方錐形天幕ヲ可トス

4. 衛生濾水機ニ就テ

衛生濾水機ノ更新修理ハ容易ナラズ命數ノ短キ事破損

シ易キコトハ最モ大ナル欠点ナリ

II 機能期待スベキ機能ノ發揮ハ凡ユル場合ニ於テ困難ナリキ常

時充分ナル整備ヲ入ル必要トス

III 重量容積共ニ過大ニシテ第一線ニハ不適ナリ濾水機内ヲ改造シ

付屬品箱ヲ取外スルモ尙其ニ重量ハ四〇斤以下トナラズ大産馬ノ

馬北ヲ輸送ハ困難ナリ

IV 馬北ヲ輸送ハ不適ナリ

0891

✓現制、濾水機、整備、運用状況等ヨリスルニ部分的給水止マ
眞、防疫的給水ヲ普及スル困難ナリ

(三)其他

1. 補給品目ノ削減(此時、藥局方ノ收載品目、限定) 尨大ナル需
給ニ應ズル生産補給ハ重点的ニ撥擧的ニナシ品目ハ最少限度ニ
止メ數量ノ增量ヲ圖ルヲ可トス

2. 衛生材料ニ関スル識能ノ向上

衛生材料ノ尨大ナル需給ニ拘ラズ之ニ對スル衛生部員ノ識能ハ逐
年ハ負弱ニテ之ガ運用ニ遺憾ヲキ能ク特友記項目ニ於テ然リ

特ニ教育必要ナリ

1. 陸軍醫藥品ノ解説、使用法

2. 統一名称ノ徹底

3. 軍需品ニ對スル尊重、愛護節用工夫精神培養

3. 乱糶、拔取等ニ就テ

0892

輒送間、乱相、拔取、甚シキハ、五〇%ヲ超スル事、實アリテ、作戦遂
行上、至大ノ影響ヲ及ボス事、憂アリ、之ガ防止ハ、一ニ道義心ノ向上ニ
在リト思惟ス

0893

七 戰訓事項之創意工夫

(一) 機動戰ニ於ケル野戰病院ノ運用ニ就テ

春季作戰ニ於テハ三箇ノ野戰病院ヲ各三縱隊ニ夫々分屬シタル之ガ爲機動戰進ノ任務ヲ有スル側方縱隊ハ行動鈍重トナリ特反轉ニ於テ部隊ノ輕捷自由ナル行動ヲ阻害セラル、結果トナレリ

野戰病院ノ第一線部隊配屬ハ戰鬥ノ進展滯滞シ一地ニ於傷者多發スルトモ傷者收容ニ便益ヲ與フルモ其ノ前後ニ於テハ却ッテ部隊トシ不利ヲ來スコト多キヲ以テ機動戰ニ於テハ第一線部隊對寧口強カイル患者輸送機關ヲ配屬スルヲ有利トシ野戰病院ノ如クハ若シモ之ヲ配屬スルトモ其ノ行季等ヲ師團主力ニ控置シ配屬部隊ノ編成ヲ機動ニ適スル如ク改メ共ニ配屬野戰病院ヲシテ狀況ヨリ患者輸送ニモ協力ニ得ル如ク準備セシムルヲ可トス

(二) 衛生隊ノ編成ニ就テ

師團ハ昭和十八年七月ノ編制改正ヨリ自動車編成ニ改メラレタルニ

一般ニ中支戰場ニ適合セラルモノナレリ 爲ニ衛生方面ニ於テハ衛生
隊ノ運用ニ常ニ困難ヲ感ジナリ 即チ衛生隊ハ編制改良ニヨリ本部
擔架一中隊車輛一小隊ノ編成ニ改メラルル爲ニ患者輸送能力著シ
ク削減セリ 中支戰場ニ於テハ自動車ハ固ヨリ輜重車輛ヲモ利用シ
得ルコト極メテ稀ナルニテ第一線部隊ヲ遠ク師團主力ヨリ離隔行
動セシムルコト多ク之が爲ニ患者輸送部隊ヲ分派スルノ要アリテ衛生隊
ノ強カナル擔送力ニ俟ツ所極メテ大ナリ 然ルニ同隊ノ現編成ニ以テハ
至リシ以テ歩兵一聯隊ノ患者収容ニ適スル程度ニテ殆ハ全破ノ需
要ヲ滿タン得ズ 春季作戰終了後同隊ヲ臨時ニ擔架ニ中隊編成
ニ改メラルルモ幹部及兵員ノ補充困難ニシテホド不徹底ナリキ
衛生隊ハ少トモ擔架ニ中隊ヲ保有セシムルヲ必要ト認ム

(三) 看護ノ重視ニ就テ

昭和十八年度以降漸次衛生材料ノ補給不圓滑トナリ之が爲ニ衛生材
料ノ節用、重要な治用、現地自給ノ徹底等ハ衛生勤務遂行上

0895

最も重要ナル一部面トナレルニテラズ又湘桂作戰以來ハ戰場ノ於テ病
院給養ノ自給ヲ缺キタル為ニ死亡率増加ノ最大原因トシテ歸シ此方
面ニ對スル關心ハ甚ク濃厚トナレリ然ルニ治病成績不良ハ一般ニ通弊
トナリシ衛生機關ノ不親切(犧牲的精神ノ不十分)衛生部員(患者
ニ對スル骨肉ノ至情缺如)特ニ看護ニ徹底ニ基因スルモノ不勉ルモア
ラハ遺憾ナリ

固ヨリ治療上ノ内容充實、患者給養ノ改善ハ治病成績向上ノ
為ニ必要缺クベカラザル要素ナルモ此等ハ資材、物資、時間的、余裕等
ノ外的諸條件ニ基リ一定ノ限界アリ然ルニ看護ノ徹底ニ至リテハ
熱意ト誠意ノ存スル所為ニ得ル限りノ努力カシ之ニ捧ガルニミテ自
ラ如何ナル方途ヲモ見出ストヲ得ベク其ノ方法モ亦古來ノ鐵則ア
ラテ安易容易ナリ要ハ衛生部員ノ使命感ヲ振起シ熱誠以テ之ニ
傾注セバ足リルニミ然シテ之ヲ阻害シタル原因ハ累次ノ作戰言ハ無
意識ニ醸成セラレタル野戰ノ殺伐粗笨ナル氣風茲ニ補充部員素

0896

質低下に伴ヒ看護、関スル教育指導等之監督不足、外衛生部員ノ精神要素ノ低下ヲ擧ゲ得ベク最近ノ状態ハ看護方面ニ於テ指導ヲ最緊要事トナセリ

第二終戦後

一、部隊行動ノ概要

終戦後昭和三年七月迄ノ部隊行動ヲ概括スレバ左ノ如シ

イ、秋季一箇月間ノ行軍

ロ、秋季ヨリ冬季ニ亙リ三箇月間ノ集結、復員準備

ニ、衛生勤務ノ概要（軍醫部業務ノ概要ヲ含ム）

（一）一般状況

軍醫部長ハ終戦後直ニ隷下衛生部員ノ通牒ヲ發シ終戦ニ依リ一般ニ戦闘行動ハ中止セラレタルニ衛生部員ノ業務ハ此モ重要性ヲ減弱セザルニ寧ロ將來ニ於ケル國家復興ノ爲益、人的資源ノ維持増強ニ邁進スベキ旨指示セリ

(二) 部隊行動・基幹衛生勤務

主トルモノ左ノ如シ

1. 長途ノ行軍・方リ出發前患者ノ後送・約兵ノ處理法・行軍間發生セ
ル患者又ハ行軍不堪者ノ收容處理

ロ、集結間衛生機関ノ運用

即チ傷生隊又第一野戰病院ハ之ヲ集結セシメ一般部隊ト同様ノ業務
ニ服セシムル外衛生隊メニテ野戰病院收容患者ノ後送ヲ一部擔任セシメ
野戰病院ハ第二及第四野戰病院ヲ開設・治療業務・任ゼシメ(收容力
夫々一〇〇名宛)軍醫部對務班・主トシテ檢索業務・コレヲ防疫・集中
地檢疫等ニ從事セシメアリ

ハ、集結部隊環境改善・関スル指導

ニ、集結間防疫・保育・診療指導

ホ、復員・爲、檢疫實施

ヘ、復員業務中衛生関係事項ノ指導

等

三、一般衛生及自給自給対策

(一) 被服

冬衣袴、全員ノ九割以上ヲホク足シアルモ冬襦袢、同袴下ハ其ノ六ノ五七割ヲ充足シアルモ過ギズ程度ハ何レモ中等度ナリ縮上靴ハ全員ノ充足シタルモ鐵銃、釘等補修材料ハ僅少ナルモ鑑ミ之ガ愛護節用ノ爲ニ非常ニ日常ハ菓草履等ノ利用ニ努メナリ

外套、全員ノ半数、毛布ハ約ニニ人ノ一枚、蒲團ハ約ニ人ノ一枚ノ程度ニシテ防寒上顧慮大ナリ又交換被服ニ缺乏シタルモ急回帰熱防止上困難ヲ感シ

(二) 給養

師團ハ現集結地・到着スル迄長途ノ行軍ヲ實施スルモ爲携行糧秣ニ乏シク駐留當初ヨリ既ニ糧秣ニ逼迫シタルヲ以テ中國側ト折衝ノ結果十月一日以降岳州・於テ中國側ノ給養ヲ受クルコトナレリ即チ主食ハ各人精米七八。瓦ヲ定量トセシ副食ハ現物代金ヲ以テ十月中ハ一人一日

八。元十一月以降同一。元(但十一月十六日以降此ノ内ニ。元ノ現品給與)
ノ支給ヲ受ケ之ヲ以テ副食品外燃料。照明材料。日用品。事務用品等、
購入。充テアリ。主食ノ補給ハ。七月上旬迄ハ。概不煩調。實施セラレタルモ。各
部隊ハ。喰延シヨリ。十日分以上ノ保有スル急一日給與量ヲ五。乃至七。
瓦トセリ。十二月中旬以降。中國側糧秣收集。不困難。伴ニ補給杜絶シ
各隊ハ。保有分ヲ以テ之ヲ補フ。止チキニ至リ。一日給與量ニ。乃至三。瓦
トナレリ。之ガ爲夫。甘藷等ヲ以テ混食トナシ。通常一日ニ食。内一食。粥食
トナシアリ。副食中。肉類。魚類。取得容易ナレトモ。十一月間ハ。コレラ
防疫ノ爲。之ハ購入ヲ禁ジ。獸肉。卵等ヲ以テ之ヲ爲。一人一日給與量約六。
瓦。過ヤズ。野菜類。甘藷。蘿蔔等比較的豊富ニシテ。一人一日給與量
約六。瓦ニ達シアルモ。茶葉類ニ乏シ
調味品ハ。特ニ補給量僅少ニシテ。食塩。一人一日給與量約一。四。五瓦。過茶
ル状態ニシテ。唐辛子等ヲ以テ代用シアルモ。保健上若干ノ顧慮ヲ要スベシ
尚入院患者ニ對シテハ。飭團控置金ヨリ。一人一日。元ヲ増賜シ。患者食

0900

同上ニ留意シアリ

(三) 宿 營

各隊共全員宿營シアルニ付、住民ト同一家屋内ニ同居シ部隊一部
ノ邊ヲ大部室外ノ堂宇ヲ借用使用シアリ、室外ニアルモノハ、通常土間、
藁ノ敷キ、竹、刈草、葦等ヲ編ミテ、仁切リ、扉等ヲ設ケ防寒ニ努メリ
便所ハ、凡テ屋外ニ新設シ炊事場等ノ衛生化ニ努メル外、中國側管理
所ノ了解ノ下ニ、戸室内、窓等ノ家屋一部ノ改良ヲ實施シ採光ヲ圖リ
十二月以降副食費ノ一部ヲ割キテ木炭ヲ自製シアリ

(四) 給 水

衛生濾水機内ニ二具ヲ殘レ爾来ハ機能不良ナルヲ以テ其ノ一具ヲ底角
ニ設置シコレヲ防疫ニ裨益セシメタリ

其ノ他ハ一般ニ川、池、湖ヲ水源トシ煮沸給水ヲ實施シアリ

(五) 自給自治

集結以來葉菜類ノ栽培、魚獲班ノ編成等、最近ニ於テハ甘藷ノ貯

藏、乾魚ノ製造等ヲ實施シツ、アルモ未ダ小規模ニシテ部隊需要ノ一部
ヲ充足シアルニ過ズ

四、防疫、消毒、檢疫、保育

(一) 防疫

1. コレラ 防疫

1. 發生前防疫

十月初以來岳州、コレラ發生シ續發蔓延ノ徵アリ、以テ師團
ハ十月十三日嵐作命兩軍ニ七九號ヲ以テ隷下部隊ニ對シ第一期防
疫ヲ下令セリ、其ノ主要事項左ノ如シ

1. 榮家灣及鹿角、檢疫所ヲ設置シ同地通過軍人ニ對シ檢疫者
及消毒後ニ同中國人ニ對シ醫學的觀察ヲ行フト共ニ外部ヨリ師
團集結地區内ニ入ラントスル軍人ヲ三日間同地ニ隔離セシム

2. 第二野戰病院メシテ榮家灣ニコレラ患者療養所ヲ開設セシム
又第一野戰病院メシテコレラ患者療養所分派ヲ準備セリ

0902

シム

八、洞楚湖、於ケル給水及漁撈ヲ禁止ス

二、一徹、魚類ノ購入ヲ禁止ス

ホ、中國人販賣飲食物ノ個人購入ヲ禁止ス

尚同時、中國側管理所ト交渉シ中國人間ニコレラレ(又、同類似)患者發見セル場合之ニ對シ軍人同様隔離、消毒、検査等ヲ要、防疫處置メテシ得ル如ク承認ヲ得ル

ii 初發患者發生ノ狀況

一、軍内初發

原武(岳州南方ニ。新)西南四村部落、宿營中ノ独立山砲兵第ニ聯隊等之中隊ノ兵一名十月ニテ一日。ニ。頃ヨリ下痢、嘔吐、削瘦、嘔聲、腓腸筋痙攣等是型的ノコレラレ。症狀ヲ呈シ。ト。頃受診直チニ隔離シ同隊、第三期防疫ノ安身施ス右ノ同月ニテ三日眞性コレラレ(異型菌)ト決定セルモ治療セリ

0903

感染経路に關シテハ本人ハ十月十九日糧秣受領ノ爲鹿角ニ赴
キタル際中國人寮屋内ニ於テ晝食時唐辛子ノ漬物トシテ食
セル事毎身アリ之ヨリ病毒ヲ受ケタルモト推定ス尙師團集結地
区内ハ嘗時未ダ中國人間ニコレラハ患者ノ發生ナカリシモ如
キ岳州地區ニ於テハ既ニ蔓延著シク且當地区内ノ物資ハ岳州
地區及洞庭湖西岸地區ヨリ移入スルモノ極メテ多ク鹿角ハ其主
要ナル集散地ニテナリタリ

口地方側初發

歩兵第九聯隊第一機關銃中隊宿營地タル隨受丸(孫武
南々東八軒)附近部落住民男一名ハ十月二十日頃ヨリ商用ノ
爲果地(詳細不明)ニ赴キ同月二十三日前記地点ニ歸來ト同時
ニ發病シ同月二十六日眞性コレラ(異型菌)ニ決定翌二十六日死セ
セリ同中隊ハ二十三日患者發見ト同時ニ同宿營地ヲ撤シ南方
約五ノ米部落ニ轉移セリ

0904

方 地										内			
疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	真	真	真	真	疑	真	真
似	似	似	似	似	似	似	性	性	性	性	似	性	性
(雷九太郎)	(独登三幸)	(步一名太郎)	(步一名太郎)	(王二六二幸)	(砲二二二幸)	(橋庄保三幸)	(菅三野高)	(步元十幸)	(步元一機)	經理部		(橋三三幸)	(步一名太郎)
女	女	男	男	男	男	男	男	女	男	兵	兵	兵	兵
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
吳	賀	吳	柳	桃	毛	彭	昏	林	隋	原	岳	林	柳
伏	衆	伏	衆	衆	衆	衆	高	衆	曼	武	州	衆	衆
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
			(死)	(死)	(死)		(死)		(死)	(死)	(死)	(死)	(死)
			七	七	七		七		七	七	七	七	七
											朝		
											家		
											運		
											中		

0906

IV 防疫實施ノ概況

例				
眞性	疑似	疑似	疑似	眞性
(歩三ノ事) 女	(重三ノ事) 女	(第一野庵) 男	(歩三ノ事) 男	(歩三ノ事) 中興 一鹿
一鹿	一張	一徐文昌	一鹿	一角
一三二二	一二二二	一二二〇	一二二七	一二二五
一三二二				一二二八
(死七)				(死七)

部隊内ニ患者發生セバ之送院スルトナリ直ニ其ノ附近ニ於テ防疫上額
 應キキ地点ヲ選ビ天幕中ヲ以テ病舎ヲ建設シ之ニ患者ヲ隔離收容
 シ消毒治療ヲ施シテ發生ハ屋外又ハ他ノ家屋内ニ轉移隔離
 シメ爾来ノ中隊主力ハ病舎地ガ廣ク汚染セラレザル限リ其ノ位置ニ
 於テ隔離ス

同居住民民間ニ患者發生セル場合ニ部隊ニ直チニ其ノ村落又ハ近
 接家屋ヲ撤去シ他ニ轉移スルト共ニ患者ニ對シテハ部隊ヨリ隔離消
 毒消毒檢索並ニ治療ヲ實施ス

此等ノ處置ハ總テノ場合ヲ通ジ患者症狀發見後速キハ十數分遷
キモ十時間以内ニ完了シ軍内又ハ部落内他部ノ汚染ヲ防止シ
得タリ 第一野戰病院「コレラ」患者療養所ハ一部隊内ニ於テ
患者續發ノ場合開設ノ予定ナリトモ竟ニ開設スルニ至ラズ

一般部隊ニ於ケル魚類ノ購入禁止ハ概テ徹底シ其ノ他ノ中國人販
賣飲食食品ハ部隊ニ於テ購入ヲ統制シ個人購入禁止ハ概テ八割
程度ニ行ハレタリ

生水飲用禁止、食器煮沸消毒等普及度ハ約九割、手指消毒
普及度ハ四乃至六割程度ナリキ

検査所ニ於ケル隔離ハ確實ニ實施セラレタルモ此ノ間指發セル患
者ナシ

√其ノ他

1. 歩兵第百九聯隊第一機関銃中隊宿營地住民「コレラ」患
者發生ヨリ際之ヲ發見セル同中隊某分隊長ハ直ニ部下

分隊長ノ屋外ニ移スト其ニ中隊長ニ對シ中隊全体ノ轉移ヲ
具申シ以テ病毒ノ軍内侵入防止ノ成果ヲ學ケルニテ師
團長ハ同分隊長ノ迅速凱切ナル處置ニ對シ表彰狀ヲ授與
セリ

口本防疫ニ方リ局地交抄ヲ以テ中國陸軍第七十七師ヨリ昇
汞噴霧器六具(借用)ヲコレヲ予防疫接種液九〇〇人分
具ニ他消毒用藥物若干ヲ受領スリ

2. 痘瘡防疫

1. 發生状況

イ. 地方側

鹿角(岳州南々西三〇軒)東方部落(歩兵第七十二聯隊通
信中隊宿營中)ニ於テ十一月七日ニ名ノ痘瘡患者(男女小
兒各二)ヲ發生シ以一名ハ死亡セリ

其ニ後一時續發ヲ認メガリシモ十二月二日以降再同部落

内ニ痘疹患者發生シ特ニ同月中旬以降流行著シク十二
月二十日頃迄ニ同部落住民總數約六十名ノ内患者十三名（
真痘十二名假痘一名）ニ達セリ

其ノ他鹿角市内及同周辺部落ニ十二月月中旬以來同症患
者ヲ發生シ主トシテ散發的ナルモノ發生部落ハ一部落ニ付患
者一―四名）十二月末現在前項流行部落ヲ合シ患者數計
約三十名（内真痘約十五名）ニ達セリ

移入経路ハ水路ニヨリ洞庭湖周辺ノ他ノ地區ヨリ来リ鹿角中
心トシテ其ノ近隣ニ病毒ヲ散布セルモノト推定セラルニ洞庭湖
周辺地區、於ケル全般ノ發生状況ハ詳クナラス

ロ 軍内

十一月十九日及同月二十一日武昌ヨリ師團主力ニ追及セル兵各
一名ハ夫々崇棗灣（岳州南ニ於テ）及岳州ニ於テ假痘ヲ發病セリ
當時未ダ師團集結地區ニ於テハ軍内ニ患者ノ發生ヲ見ナ

0910

リシモ前項地方側發生ニ引續キ鹿角地區集結中ノ步兵第
百二十聯隊ニ病毒侵入シ同通信中隊（宿營地住民間ニ痘
疹流行ス）及第三歩兵砲小隊ニ於テ假痘ノ小流行ヲ未前
者ハ總員約百名中患者數一〇名後者ハ總員約七〇
名中患者數一〇名ヲ算シ其他ニ聯隊本部、第四中隊
第二機関銃中隊、第三大隊本部及第九中隊ニ夫々一乃
至二名宛散發シ十二月末現在軍内發生數眞痘一名
假痘二五名計二六名ニ達セリ

感染経路ハ武昌ヨリノ移入地ニ鹿角地區住民ヨリノ傳播
ナリト認め

ii 防疫實施施

十二月十八日及同月二十日 痘苗計一万人分ヲ受領シ昭和二十
年二月以降種痘未済者竝ニ鹿角地區部隊ヲ優先シ種
痘ヲ實施ス

0911

歩兵第百二十聯隊通信中隊ハ宿營地住民間ニ痘疹流行シ
軍内ニモ傳播顯著トナリタルニ爲テ宿營部落ヲ轉移セリ
其ノ他ノ發生部隊ニ在リテハ患者及發生分隊ヲ夫々別箇宿
離シ特ニ軍隊及住民相互ノ病毒ノ交流ヲ防止スルニ努メシム
眞痘患者ハ第四野戰病院ニ收容セシモ假痘患者ハ之ヲ部隊
治療ニ委セリ

川教訓

1. 終戦前軍隊ト住民トノ完全離隔ナル宿營状況ニ於テハ痘疹
ノ軍内侵入ハ極メテ散發的ニシテ防疫的顧慮少カリニ終戦
後軍隊及住民雜居ノ状況ニ至リテハ軍隊ハ容易ニ病毒ノ
侵入ヲ受ケ時ニハ小流行ノ状況ヲ呈シ防疫的意義甚極メテ
大トナレリ

口 今次軍内ニ發生セル眞痘患者ハ最近十二年末ニ種痘者
ニシテ昭和十九年春總召内地出發時迄補老隊ニ於テ種痘

0912

シ受ケタルコトナリ 又昭和二十年冬、師團ノ種痘實施時期ニ於
テ、其ノ所屬大隊ハ他兵團ニ配屬中ノ爲實施ノ機ハ失ヒ其
後同大隊ガ師團主力ニ復歸シ種痘ヲ實施セシ際本人ハ兵站
病院ニ入院中ニシテ實施ヲ漏レルモナリ
其ノ他、假痘患者ハ何レモ昭和十九年二月以降種痘ヲ實施シ
アリ

3. 其他ノ傳染病

i 赤痢

九月以來漸次減少シ其ノ患者概數ハ九月一五〇十月一〇。十月
八〇。十二月五〇程度ナリ

ii 腸チフス、パウチフス

殆ト發生ナク集結以來累計僅カニ四五名ナリ

iii 回歸熱

集結以來毎月其ノ發生患者數四五名ニテ(七月より) 増加傾向ナリ

即チ第二野戦病院一部ニ於テ院内續發シテ十二月申ニ六名ヲ
發生セリ 嚴ニ被服ノ煮沸(蒸氣)消毒ニ勉メ特ニ患者ヲ轉
送及退院時ニ被服更新ニ留意セシメアルニ未ダ完全ナラズ

(二) 防瘧

1. マラリア患者發生状況

終戦以來「マラリア」患者發生状況(概數)ハ左ノ如ク著明ニ減
少シツ・アリ

(九月) 四〇〇 (十月) 三〇〇 (十一月) 二〇〇 (十二月) 二〇〇

2. 防瘧實施状況

イ. 終戦後集結以來蚊帳ハ全員ニ普及シ具ニ使用ハ徹底セリ而
シテ十月下旬以降ハ概不蚊ノ飛翔ヲ認めズ
ロ. 集中地檢疫ニ於テ摘發セル潜伏「マラリア」患者ニ對シテハ後療
法ヲ實施セリ

(三) 檢疫

0914

支那派遣軍検査要領要領之第三十軍集中地検査要領
其キ二六師作命丙第六號ヲ以テ自十一月二十五日
實施ス其ノ概要左ノ如シ
一、腸管系傳染病

軍醫部勤務班擔任シ十人一組ノ集團検査法ニ依リ實施、被檢
總員一五二一名中陽性者十三

スマナリ

各部隊ノ擔任トシ既往症、貧血、肝腫、脾腫等ニ基キテ疑似者(全
員ノ約二割)ノ選定シ之ニ就キ原虫検査ヲ實施シテ原虫陽性成
績ハ被檢人員二八五〇名中九六名(陽性率三三・六%)ナリ

只性病

各部隊擔任シ全員検査結果梅毒疑似者ニ對シテ六軍醫部
勤務班ニ於テ一拾ニ井出反應ヲ呈見セシハ摘發セル患者數
疾四二名 梅毒八四名(井出反應被檢者數九一名中陽性六六名)

0915

軟性下疳一名計一三七名ナリ

此等患者ニ對シテ目下夫々治療ノ途具弛中ナリ

四 保育

一、終戦直後集結ノ後行軍ニテリ自衛セル所共處理

終戦後師團ハ警備地ニ徹シ集結地ニ向ヒ約四〇〇軒ノ行軍ノ實
施スル方ヲ予メ各部隊ノ弱兵ヲ集合シ保護兵大隊ヲ編成シ緩徐
ナル行軍ヲ以テ前進セシメタリ

該弱兵ハ約七〇〇名ニ達シ之ヲ四箇中隊ニ編成シ大隊本部及各中
隊ニ夫々軍醫一衛生下士官ニ衛生兵三ヲ配當セル外大隊ニ輜重
車輛五(病廢、水盞間使用)ヲ配屬セリ 同大隊ハ師團主力ニ出
發ニ先立ワコト一週間ニシテ前進ヲ開始シ病廢、長沙間師團主
力ノ行軍ニ二週間ヲ要マシ區間ヲ三週間ヲ以テ前進セリ 又長沙
以降、在リテハ更ニ編成ヲ強化シ二級部隊中ヨリ尚行軍不堪トナ
レルモノヲ併々編入シ總數約一四〇〇名ヲ長沙、紫家灣(岳州附近)

0916

ワ科)間汽車輸送セリ

斯ノ如ク弱兵隊ノ行軍ハ極テ慎重ニ實施シタル結果縮成當初ハ殆ド凡テ入院ヲ適當トスル程度ノ弱兵(下痢、脚氣、疥癬等患有多ク)ニ漸次休カシ恢復シ目的地到着時ニハ外見上殆ド他ノ一般部隊ニ比肩ニ得ル程度ニ至レリ同大隊中ノ落伍者ハ長沙ニ於テ約五〇名、岳州ニ於テ約四〇名、計約九〇名ノ入院患者ヲ出シテルニ過ギズ

又、集結間保育

集結間一部部隊ニ於テ特別訓練隊ヲ編成セルモノアレドモ積極的意義ニ乏シク弱兵ノ集合温存ヲヒトスルニ過ヤカル状態ナリ
各部隊ハ宿營施設ノ改善、給養ノ現地自治對策等ニ努力シ又兵業ハ糧秣輸送、農耕、新伐採等ヲ主トシ宛々適度ノ運動ニテ一般ノ状況ハ保育ニ有利ナリ
自五月間結核及結核性疾患患者發生數毎月十名内外ナリ

0917

五、患者ノ状況

(一) 患者發生數及其比率

自昭和二十年九月至同年十二月 患者發生數及其比率左表ノ如シ

月別	新			患	
	傷	病	傳染	計	平均一日現在患者數
九月	(一九三)	(一四一七)	(一、九)	(一四九八)	三六五
十月	(二三三)	(九八三)	(一、八)	(二、三六三)	六〇〇
十一月	(一四九六)	(九、九〇)	(一、五)	(一、五一一)	三八〇
十二月	(一、五〇〇)	(九八〇)	(二、三〇)	(一、五三〇)	四五〇
計	(一、〇三)	(六、七三四)	(一、〇九)	(六、八六二)	二四〇

備考 一、括弧内數字ハ計ニ對スル百分率ヲ示ス

二、各月平均一日現在患者數及毎千平均一日現在患者數並ニ十月

分各欄數字ハ概數トス

(二) 部隊行動、甚ク患者發生ノ特徴位ニ之ニ對スル對策及其成果
長期ニ亘ル行軍後外被病ノ多發

1. 貴況

集結地到着以來各部隊共一様ニ疥癬・頑癬等ヲ被病ニ多發
ニ困惑セリ是晚夏一箇月間ニ亙ル行軍ニ於テ身體不潔ハシ放任シテ
ル結果ニシテ其ニ發生數ハ異常ニ多數ヲ占メ步兵一箇大隊ニ付患者數
五六十名乃至百三三十名(全員ノ一〇一ニ%)ニ達シ其ニ程度モ之ガ急行
軍不能ナルモノ時ニハ弱臟疾患ヲ合併シ来ルモノ等重症ナルモノ相當
數ニ達セリ

2. 對策

軟膏類發行量十分ナラズ各隊ニ武昌殘道梱包等ニ當接シテ
メシメ外被病藥ノ入手ヲ圖リタルモ患者數比シテ入手量極メテ少ク
クニテ遺憾トス

十二月上旬師團ニ於テ中國民間ヨリ硫黃五〇任ヲ購入シ之ヲ各隊ニ
交付シ夫々硫黃製劑ヲ自製セシメテ

3. 成果

0919

十二月以來、外被病死者、著減、從前ノ $\frac{1}{2}$ 乃至 $\frac{1}{3}$ 以下トナレリ

六、患者轉送後送ノ状況

終戦後患者轉送後送ノ状況左ノ如シ

一、贛慶地區出發前患者ノ後送

終戦後師團、贛慶地區出發方々、八月中下旬ニ亙リ開設中野

戦病院收容患者計約一、三〇〇名ヲ自動貨車ヨリ衡陽ニ後送ス

二、行軍間患者輸送及轉送

贛慶地區ヨリ岳州南方地區ニ向テ行軍間先ヅ贛慶、長沙間發生

セル患者ハ輜重隊及其他ノ部隊ノ空馱馬ヨリ收容シテ所圍全散

ニテ收容數約一〇〇名、長沙ニ於テ患者約三〇〇名ヲ兵站病院轉送

爾後長沙、岳州間ニ發生セル患者ハ自動貨車、車輜及各隊ノ空

馱馬ヲ以テ收容シテ、前進シテ收容數約一〇〇名、岳州ニ於テ患者約八

〇名ヲ兵站病院ニ轉送セリ

三、岳州、鹿角地區某師團患者ノ後送

0920

孫武、鹿角地區集結以來師團ハニ箇ノ野戰病院ヲ開設シ發生
患者ヲ收療セシメツ、アリノルモ自十二月三日間第二野戰病院收容患者
者四九名ヲ鐵道ニ依リ（榮米橋）冷水舖（第四野戰病院收容患者
者三六名ヲ水路ニ依リ（鹿角）城後磯）何レモ冷水舖等百八十五兵站
病院、後送セリ

七、衛生材料ノ状況

特記スベキ事項ナシ

八、接收ニ関スル渉外事項

昭和二十年十二月末日ニ至ル迄師團ハ衛生材料ノ接收ヲ行ハズ

〔註〕昭和二十年十月廿日師團ハ中國陸軍第十八師團ニ鹿角ニ於テ兵

器ヲ讓渡スルニ際シ同師ヨリ衛生材料ノ接收ニ関シテモ言及アリシ
ガ軍醫部長ハ該中國側接收委員ニ對シ師團ハ常徳作戰業
累次ノ機動作戦ニ参加セル爲衛生材料ノ携行量ハ甚クニノ制
限ヲ受ケアルノミナラス又目下患者多發シアラテ衛生材料極ク乏通

0921

迫シアルトトヲ具陳シ其ノヲ解ヲ得テホク接收シアラス

九、其他必要事項

復員業務ノ書類調製上十二月下旬各野戰病院ヨリ符校ソ長トスル
衛生部員ヲ夫々長沙岳州及武漢地區兵站病院ニ派遣シ師團所
屬ノ軍人軍屬中兵站病院ニ收容後送セラレタル患者ニ関シ其ノ資
料蒐集及連絡ニ任ゼシメツアリ

0922

衛生部員今後ニ於ケル衛生業務上ノ心構ニ関スル指示

皇國ハ過ル八月十四日突如聖断ヲ以テ、ホツテム、會談宣言ヲ受諾セラル皇國軍
官民等均シテ此ノ辭輩ノ急変ト其感激無量ノ念ヲ打タルハ周知如シ、而シテ翌ナレ
畏クモ天皇陛下ニ於カヌレテハ之ニ關スル詔書ヲ喚發アセシレ、般皇民ハ其ニ國体護持ノ御聖
慮ニ甚キ將素任重ノ道遠ヤ千辛萬苦ヲ排除健忍シツ、只皇民族復興ニ邁進シ以テ廣
大無辺ノ御仁慈ノ大御心ニ應ヘ奉ル可キ堅キ決意ヲ再度固メ感激胸ニ逼ルモノアリ
又翌々十七日ハ重ホテ特ニ吾々軍人ニ對シテ今次戰爭ニ參加シ勇戰奮闘克ク盡忠報國赤誠
ヲ致シト有難キ御嘉尚ノ勅語ヲ賜リタルニテ、同日支那派遣軍下將兵一同對シテハ特ニ勅
使トシテ朝香男爵ヲ王殿下ノ御差遣ヲ賜リ親シク、陛下今回ノ停戰會談宣言ヲ受諾關
スル御意中シ詳クニ傳達アラセラレタリ此處ニ於テ將兵一同ハ此ノ重ホクノ深キ御仁慈ノ大御心
ヲ愈々益々國体護持ヲ深刻ニ胸ニ刻ミシト共ニ又詔書ノ勅語ヲ深ク拳々服膺シテ途民族
復興ノ礎トシテ鞏固ナル團結ヲ固メ千辛萬苦ニ耐ヘ國家永年ノ其礎ヲ築キ上ル意旨ニ必
謹承命粉骨碎身ノ所先恪シ新ニ期シん次等ナリ

軍ニ向後休戰條約締結シ又其ノ批准セラレ復員セラル迄ノ幾歲月待機間ハ銃砲戰爭行

勳中止セラレタリト雖モ祖國復興ノ根幹ナル吾々外征將兵ノ健康保全ヲ始メ傷病予防ノ
深刻ナル注意ヲ肝要トスルハ勿論職ヲ衛生部員トシテ奉シテ吾々使命ハ爾後益々重キ加ヘ来レ
ルニ思ヒテ致セバ衛生兵ノ一兵ニ至ル迄堅ク銘記シ軍ニ人的資源ノ減耗防止揮身精勵致
スニテラス其ノ増強ト予防致ニ治療ニ向テ特醫師タル軍醫ハ其ノ大使命ニ鑑ミ其ノ真意顯
現ニ努メテ又リトモ多ク又一日ナリトモ早キ治療ニ貢獻スル如ク一段ト其ノ覺悟ト努力ヲ期セラルガ
之今々此ノ待機間ニ於ケル絶好ノ期間タルビシサレバ衛生上ニ関シ警言ハ敵手ニ委ス可キ状態
下ニ適場合アリト雖モ吾人ハ斷シテ既周ノ如キ敵側醫務機關ノ不充備ノ不徹底醫務
業務ニ甘ハスヘキニアラサルハ甚ダヨリ皇國將來復興ノ原動力ナル將兵ノ重任ニ担ヒテ其
衛生業務ヲシハ眞ニ吾人ノ双肩ニ係ルモノレバ其ノ全智全能ト凡ニル誠實ヲ以テ現存有資
材ノ全幅機能ヲ發揮シ以テ其ノ運用ト利用工夫ト依リ弛急ナキ其勢達成ニ遺憾ナキ
邁進ヲ切望ス

昭和二十一年八月二十日

第百十六師團軍醫部長

0924

在孫武司令部及直轄部隊檢便成績表
 自昭和20年11月
 至同年12月間實施 第十六師團軍醫部

區 分	檢便部隊人員		司 令 部	師 團 通 信 隊	兵 器 勤 務 隊	病 患 廠	計	% (總員對%)	
	檢 査 部 隊	人 員	572	222	62	44	900		
線 索 類	蝨	陰性	165	32	12	7	216	24.00	
		陽性	407	190	50	37	684	76.00	
	卵	+++	30	4	1	1	36	4.00	
		++	144	31	11	6	192	21.33	
		+	233	155	38	30	456	50.66	
	鞭	蟲卵	41	24	11	9	85	9.44	
	+	指腸虫卵	2	2			4	0.44	
	其 他	吸虫	5				5	0.55	
ア メ ー バ 類 及 ア メ ー バ シ ス 類	陰性		270	78	20	20	388	43.11	
		陽性	302	144	42	24	512	56.89	
	内 類	阿米巴	赤痢	106	24	6	8	144	16.00
		阿米巴	大腸	144	124	38	14	320	35.56
		阿米巴	沃度	64	21	5	2	92	10.22
		阿米巴	矮小	66	5	6	9	86	9.56
	譯 類	アメーバ	チアルチア	70	28	6	4	108	12.00
		アメーバ	トリコモナス	3				3	0.33
		アメーバ	チロストクサス=リー	2	1	1	2	6	0.67
		アメーバ	エンバチスチスチスチ	2				2	0.22
	イソスポーラ	3	1			4	0.44		
備 考	1. 検査一回實施ノ成績ナリ 2. 検査人員ハ各部隊ノ現在人員ニテノ成績ナリ								

0925

戰訓

一編成

人定負 野戰病院軍醫定負ハ現況ニ於テハ過剩ニシテ徒ニ負數ヲ揃フルノミナラス各
 專攻軍醫ヲ以テ滿テ現在負ノ下ニテ可ナリト思考セラルル國內終戰當時ノ醫師
 不足ノ狀況ヨリ鑑ミ編成ニ踉蹌アリシモト反省セラルル但シ下級衛生部員ハ不足ヲ来セリ
 2. 患者輸送力 野戰病院ニハ患者輸送力ヲ部附與スルヲ要ス少クモ千担架ハ常備シテアル
 ヲ要セリ

二裝備

1. 衛生材料醫板類 大陸ハ地形上ヨリ見レハ交通路發達セス車輛ヲ用フル事極メテ少ク小徑
 ヲ越ヘ溪路ヲ渡リ嶽ヲ設ル泥田ヲ涉ル行動ニ際シテハ衛生材料ノ運搬意ノ如クトラス特ニ制式
 病院醫板等推乃行不能ニシテ作戦時殆ト輕便ナル代用醫板ニ依ル事多ク故ニ醫板ノ外
 箱ハ更ニ小トシ駄載ヲ主トスル如クナレ且内容ヲニ系統トシ第一組ハ行動ニ緊要ナル近用材料
 ノ最小限トナレ 第二組ハ野戰時ノ遠用代用醫板ト區別裝備シテアリシテ行動ニ緊要ナル近用材料
 2. 器械類 外科器械 外科器具 軍醫携帶器具 齒科器具 耳鼻咽喉科器具等ノ入組
 不要ナル遠用品モ在リ再檢討ノ上改良ノ要アリシト思考ス
 3. 方錐型及手術用天幕等ハ大陸ニテハ不要ナリキ

三患者ノ心理ニ就テ

戰況逼迫時患者ノ心理狀態低調ニシテ動搖ヲ来レ易ク平時精神養素涵養ノ緊要ナル事ハ
 幾多ノ戰訓ク教フル所ナリ敵前ニ於テ猛虎ノ如キ勇者モ一度担送收容セラレバ志氣沮喪シ
 別人ノ激アリ故ニ担任醫官ハ治療ト共ニ患者ノ志氣鼓舞且患者ノ良キ指導者トシテ一役努力
 ノ要必須ナルハ喋カヲ要セス 戰線近ク開設ニ際シ患者輻湊ヲ極メ些少ノ衛生部員ハ席暖マ
 ル事ナク治療ニ迫ハレ總テ暇ナキ時重症空ヲ覆フ呻吟ノ聲ハ凄慘ナリ衛生部員ハ席暖マ
 ハ更ニテ衛生兵トナリ更ニ更ニテ怒號トナル又母ヨト呼フアリ後送醫ク杜ハ藥物補給悉皆
 ノ票狀況ニ於テハ千余ノ患者ニ忽チ材料缺乏シ傷病ヲ慰スルニ術ナク扱スルニ藥ナキ時唯一ノ衛生
 部員ノ武骨アリ且患者ノ捧クル藥治方ハ慈愛懇切ナル看護ノミ 斯様ノ狀況ニ於テ一擲

水一言、激勵詞ハ萬餘ノ注射ニ價スルニ充分ナリ又志氣沮喪セル患者ニ對スル以て兜鞭撻ハ起死回生ノ手段タリ畢着惡條件下ニ於テハ殊ニ患者ト衛生新貨トノ渾然一作カ緊要ナリト思考ス

四、患者輸送ニ就テ

大陸ニ於ケル部隊機動間ノ患者輸送ハ交通路ノ關係ト担送ニ依ル事ノ多カリキ然レモ大陸ノ泥濘ノ寒路ノ担架輸送ハ極メテ困難ヲ伴ヘリ傷者多發時ハ臨時編成ニ依ル担架兵ヲ以テ充當セル事多ク行動時患者ハ勿論担架兵ノ掌握指揮極メテ至難ナリキ前進路上ニケテ所簡單ナル障礙物ニ依リ担架間ノ距離ハ大トナリ百餘担架ノ行動單長徑約三料ニ及ビシ例アリ(湘西作戰及乾溝)

制式担架ハ堅牢ナルモ重量大ニシテ横鉄等輕金屬ヲ使用シ輕減ヲ計ル事必要ナリト

思考ス多敷長途担送時行動間治療ト重傷者要縮帶交換患者ヲ集ムルヲ要ス又重症者中ニ數名ノ独歩患者ヲ挿入行軍セシムル事ハ重症者ノ看護ノ任ヲ兼行セシムル為必要ナリ

五、診療ニ就テ

一、止血 野戰病院收容患者ニ就テ見ルニ第一線ニ於ケル第二線帶ハ受傷者之ヲ実施スル事比較的尠ク戰友特ニ衛生兵之ヲ施行セル事多ク衛生法救急法教育不徹底ヲ痛感セリ第一線止血ハ主トシテ壓抵縮帶ハ止血帶ニ依ルヲ常トセルモ特ニ後者ノ濫用ノ傾向アルハ否メ又事更ナリ常徳作戦ニ於テハ冬期ノ關係ト下收壊死ヲ起シ切斷術ヲ行ヒル事例ニアリ又當然止血帶装着ヲ適應トスル患者ニ壓抵縮帶ニ止メアリシ事例又極メテ多ク畢竟第一線軍醫分佈度ヲキ為直接醫官ノ手ヲ經スニ收容セケレニ因スルノト衛生下士官以下止血教育ノ不充分ニ依ルモノト判断ス

又、アミーバ赤痢ノ原因

アミーバ赤痢原因ハ湘桂湘西兩作戦中ニ於テ當病院收容アミーバ赤痢患者凡ソヤハ八若ハ行軍中地表外飲用ノ既住アル者ニシテ固ヨリノ原因ニ正鵠ヲ期スルヲ得ザルモ如何ニ行軍軍紀ノ乱レアルヤヲ察知シ得テ大陸ノ水毒水ト思ヘレノ鉄則忘レシ者多シ

六、患者ノ給養ニ就テ

野戰病院ニ於ケル患者ノ給養治療ハ平ノ兩輪ノ如キモノニシテ殊ニ戰線皮接ニ開設時然リトス

收容當初ノ傷者、大部分ハ其ノ訴ルル所先ツ空腹ナリ強キ鴉汁ニ概ク彼等ニ取リテハ如何トモ厚キ治療ニ優ルコト多シ傷者ハ胃腸ヲ然ル後始メテ治療ヲ求メ疼痛ヲ訴ヘ睡ヲ貪ルモノレハナリ野戰病院ノ給養機關ハ編成上極メテ薄弱ニシテ等閑視セラレアルモ以上ノ意味合ヨリ常ニ後方病院ト同等否一層自強力且彈力性アル機能發揮ヲ必要トシキ

七、衛生諸報告書類ハ煩瑣ニ過キレ嫌トシトモ多數ノ庶務室附下士官ヲ必要トシテ事務ノ能率上支障アリト思惟ス
八、病床日誌、證明書類、病歴書類等ノ事務ヲ更ニ簡略化スル要ヲ痛感セリ

一、教育訓練ノ教育ヲ更ニ臨床教育ニ重シク置キ卒業生ハ百ニ相等ノ全科目ニ自信且經驗者ヲラシメノ爾後ノ研究ハ改メテ遠ニ研究スル様ニ教育スルコトセリ戰時速成教育ニテ以テ之アルハ否メ又事失トシモ將來ニ就テモコソ大ニ考慮スルコト也
二、少尉ニ國民兵後ノ身体者弱兵ヲ濫ニ給養補充ノ不充分ナル環境ニアル前線ニ補充シテ榮養失調症等多發セシメ第一線業務ヲ繁雜ニスルト其ニ國力ノ的資源ニ大ナル損耗ヲ招キレハ惜シキ事ナリト忠告ス

停戦後ノ状況

(1) 接戦ノ外華頂
(2) 主要ナル疾病、傳染病發生治療状況

傳染病
徐文昌駐留以來發生ヲ見ス

性病

行軍間感染シ徐文昌ニ於テ發病シタル初發ニ再感染患者及再發患者合計三名ニシテ何レモマラリア(三日熱)患者ナリ検査ノ結果マラリア(三日熱)上例検出セリ患者ハ何レモ總單法第四法塩燻、ヒノラミン療法ヲ實施シ目下治療中患者七名ニシテ隊治ニヨリ近ク治療ノ見込入院ヲ要スハキ者ナシ
第二期梅毒一名目下治療中ハルバルサン及水銀劑ヲ併用シ入院ノ要ナシ徐文昌駐留以來淋毒性尿道炎二名治療セシモ目下全治シ患者無し